夕刊　臺灣日日新報　十二月三日

大東亞戰爭一ケ年の回顧 三

擧國渾然決戰に臨む
勝拔く政治新體制確立

政治篇

十一月十八日の大本營發表はフロモン諸島に敵を撃滅されてゐる日本の地位は新たな大戰略の出發点に大東亞戰爭が世に現れたことは何人も知ってゐる、それは昨年十二月八日、宣戰の大詔渙発に接し、皇軍は直ちに東亞の大陸並に海洋に進撃を開始したのであるが、じっと眺めてゐた米英ABCDの連合軍は、ハワイ、マレー、ビルマ、ジャワ、フィリピンと次々に撃滅されて行くのを見て、ようやく「やるべきか、やらざるか」と云ふ問題が出て来たのである。

米英は、日本の東亞新秩序建設の目的に対して、これを阻止しようとして、ABCDの連合軍を作り

藥研製錬を視察

戸田侍從・基隆市に到着

【基隆特電】一日午後五時九分の列車で基隆に着いて山の一夜を明した戸田侍從三日午前十時十分基隆市を出発、同市内の各所を視察しつつ午後四時三十分基隆市を出発、同五時三十分基隆市に到着、同市内の各所を視察し、同八時五十分基隆市を出発、同九時三十分基隆市に到着、同市内の各所を視察し、同十時三十分基隆市を出発、同十一時三十分基隆市に到着、同市内の各所を視察し、同十一時五十分基隆市を出発、同十二時三十分基隆市に到着、同市内の各所を視察し、同一時三十分基隆市を出発、同二時三十分基隆市に到着、同市内の各所を視察し、同三時三十分基隆市を出発、同四時三十分基隆市に到着、同市内の各所を視察し、同五時三十分基隆市を出発、同六時三十分基隆市に到着、同市内の各所を視察し、同七時三十分基隆市を出発、同八時三十分基隆市に到着、同市内の各所を視察し、同九時三十分基隆市を出発、同十時三十分基隆市に到着、同市内の各所を視察し、同十一時三

臺灣新報
第一種郵便物認可　昭和十五年一月五日第三種郵便物認可
（第一版）

ルンガ沖海戰大戰果

敵戰艦一を擊沈、巡艦一轟沈

我水雷戰隊、敵有力部隊强襲

【東京發同盟】大本營發表（三日午後五時十五分）帝國水雷戰隊は十一月三十日夜間ガダルカナル島、ルンガ沖合の敵有力部隊に對して强襲を敢行せり其の戰果左の如し

戰艦一隻擊沈、オーガスタ型巡洋艦一隻轟沈、驅逐艦二隻擊沈、驅逐艦二隻火災

我が方の損害は驅逐艦一隻沈沒

（註）本夜戰をルンガ沖海戰と呼稱す

【擊沈破艦船百廿五隻】

第一次ソロモン海戰よりルンガ沖夜戰迄　南太平洋水域綜合戰果

【東京發同盟】ルンガ沖夜戰の大戰果發表により第一次ソロモン海戰よりルンガ沖海戰まで即ち八月七日から十一月三十日までの間にソロモン群島を中心とする南太平洋水域において擊沈破せる敵艦船は百二十五隻に上り、擊墜破せる敵飛行機は八百五十機以上でその內譯は左の如し

	擊沈	大破	中破	大破又は中破	計
戰艦	一	二	〇	〇	七
空母	四	二	二	〇	八
巡洋艦	三一	五	〇	〇	三六
驅逐艦	二一	七	三	五	三六
潛水艦	九	一	〇	〇	一〇
掃海艇	一	一	〇	〇	二
艦型未詳	〇	一	〇	〇	一
輸送船	一七	六	〇	三	二三
合計	八七	二三	七	八	一二五

飛行機擊墜破　八五〇機以上

尙この間我方は艦船沈沒大中破四一隻、飛行機自損及び未歸還二〇六機、大破三一機と云ふ食い犧牲を出してゐる

敵戰艦に魚雷數十本

世界海戰史上特筆の偉動

【東京發同盟】日米海戰史上未曾有の大戰果を擧げてから早くも半年、我が國は開戰以來の大戰果に驕ることなく、十一月十二日ガダルカナル島の日本のキャタピラ部隊を全滅させ、ルンガ沖海戰に於ては敵艦隊に對し、いや增しの大打撃を與へ、我方の損害の全きを期して敵に痛撃を與へようとしてゐる、國民は日本キャタピラ部隊の全滅に對して、なんらの悲觀をせず、敵艦隊に對しても、敵艦隊に對しても、敵艦隊に對しても

市街地信用組合は産業組合から分離

産業組合法改正案上程

玄米にも公定價格

政府調査で研究を進ム

港灣荷役の增強

同盟交渉會議

英の搾取、完全脱却

明朝のマレー、スマトラ

白衣勇士を御慰問

横須賀海軍病院へ行啓

白衣勇士を御慰問

横須賀海軍病院へ行啓

皇后陛下の御仁慈

[illegible]

再起奉公へ將兵奮起

嶋田海相謹しんで語る

[illegible]

密林の奥・惡條件の下

決死の對敵放送

松内陸軍報道班員苦心談

[illegible]

鐵道工場を隈なく視察

戸田侍從　きのふ臺北帝大へ

[illegible]

龍顔を咫尺に拜し

完勝へ挺身誓ふ

梁井臺北州知事謹しんで語る

咫尺に龍顔を拝し恐懼感激の極みであります

[illegible]

宣戰一周年記念講演會

六日・臺北市公會堂に開催

[illegible]

長期戦だ！

あなたの心構は出來てゐるか

大東亞戰爭一周年記念　臺灣奉公壯年團

心臟　尚愛・治療に　心力　臺北市心本力

ベルトレーシング　大阪鐵レーシング製造所

科飲い温の冬　興亞スピーユー（り入糖砂）

ポツラプ印　イキンと米糊

建築界之福音來る　ルーヒング　屋根瓦並にスレートの代用品　富士商會

會葬御禮　馬田仙太郎

戰火に起つ新生比島 (三)

コレヒドールも緑一色

島内航路線は開拓戰士で超満員

【東京発同盟】大本營發表の比島攻略戰は、同島西南端のスールー諸島に開れた島嶼群をサンフニルナンドからバタアン半島に島伝いをなしてマニラ、ラニ、サマル、アクカイ、バランガ、オリナン、リマイ等バタアン東部沿岸に沿ふ島嶼群の攻略に十分な日数を要したるが、敵の主力はバタアン半島の要塞に集中し、我が主力はこれを包囲するに水も洩さぬ陣容を以てし、バタアン半島の攻略は一面陸海空を通じ一〇〇名となつた。昨日一時でも開れる事なかりしバランガからバタアンに通ずるバタアン半島の中間の中部地帯の敵を殲滅し、敵を半島の先端に追ひ詰めんとして目指すべく、半時間位の後、敵を出すことも出来た。本戰線はこのジャングルの中に敵陣が秘匿され、敵を島の奥深く追ひ込んだので、明らかに敵の主力はバタアン半島の先端に集中されてゐるものの如く、所謂「ラバウル」となつてゐる。目下の戰況は、水牛が物凄うに水を浴びてゐる。